

## 知床の樹木 ハイマツ

マツ科マツ属の常緑針葉樹で、地面を這う様な形をしていることから「ハイマツ」といい、本州中部以北の亜高山帯～高山帯の厳しい環境の中で生育している樹木です。成長が非常に遅く、幹の直径が10cmになるのに約100年かかるともいわれています。樹高は30cm～2mの低木で、枝分かれをして四方に広がります。葉は長さ3～10cmの針状で、5本1束になって枝につきます。



ハイマツと知西別岳

雌雄同株で、雄花は新枝の基部に、雌花は枝先にそれぞれつき、球果（松ぼっくり）は2年かけて成熟します。

球果は、栄養を多く含むためヒグマを始めとした動物たちの餌にもなります。また、ホシガラスやシマリスなどの動物が越冬の為、ハイマツの球果を食糧として貯蔵することから、その内食べ忘れたものが発芽するといった動物散布で広がる樹種でもあります。

生育地が高標高地のため、一般に登山をする人ぐらいいか馴染みのない樹ですが、ここ知床では、知床横断道路の知床峠付近でも車から気軽に一面のハイマツを目にすることができます。



雄花



雌花と球果

## カムイワッカ方面の交通規制及び立入規制について

現在、カムイワッカ方面へ向かう道道知床公園線の知床五湖からカムイワッカ湯の滝は、落石防止工事のため全面通行止めになっています。ただし、7月13日（金）から9月20日（木）までの70日間は工事が中断され、知床自然センターなどからシャトルバスが運行されます。

今年度の、カムイワッカ湯の滝の立ち入りについては、浮石による落石の恐れがあるため、「一の滝」までとなっています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。（図は交通規制区間）



※詳細につきましては、斜里町商工観光課 HP をご覧ください。

<http://www.town.shari.hokkaido.jp/shiretoko/index.htm>

この広報誌は道産間伐材を使用しています。

## 知床の森から



写真：エゾアカガエル

北海道森林管理局 知床森林センター  
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地  
電話 0152-23-3009 FAX 0152-23-3160  
ホームページ <http://www.shiretoko.go.jp>



## 知床は今

7月、知床にいよいよ夏がやってきました。植物の生命力がみなぎる夏は、知床がもっとも色鮮やかな季節です。先日斜里町の市街地からほど近い「以久科原生花園」を訪れたところ、橙色のエゾスカシユリ、赤紅色のハマナスなど色とりどりの花が咲いていました。短い夏の間しか見ることができない風景だからか、知床の花々には特別の美しさを感じます。

ところが、この時期各地で見られるお花畑、なかには「きれい」と喜んでばかりいられない、ちょっとやっかいなものもあります。例えば、フレペの滝などでも見られるハンゴンソウの黄色いお花畑がその一つです。近年、知床半島では増加の一途を辿るエゾシカが次々と植物を食べ尽くしています。しかし、このエゾシカの嫌う植物であるハンゴンソウは選択的に食べ残され、結果的に各地で群落が広がるようになってしまったのです。かつてはセリ科の植物が目立つ草原だった知床岬地区も、今では夏になるとハンゴンソウの花で埋め尽くされるようになったということです。ハンゴンソウの他にもトゲをもつ外来種であるアメリカオニアザミなど、知床ではエゾシカが嫌う植物の花が目立つようになりました。

昨年末、知床半島の基部に近い真鯉地区で、地元企業によるエゾシカ食肉加工施設が開業しました。野生のエゾシカの捕獲から食肉加工までの一連の工程を備えるこの施設、“エゾシカの増加に歯止めをかけるのに一役買うのでは、”と期待が寄せられています。

まもなく知床では世界自然遺産に登録されて3年目の年を迎えようとしています。世界に認められた知床の貴重な自然を未来へ引き継ぐため、エゾシカ対策に限らず使用済み食用油から精製するバイオディーゼルエンジンを使用したバスの導入など、各方面で様々な取り組みが行われています。知床を訪れる観光客の皆さんは、これらの取り組みにも注目してみてください。



ハマナス



エゾスカシユリ



ハンゴンソウ



第67回 森とのふれあい  
『世界自然遺産・知床の森で幻の沼を発見しよう』を開催  
～炭焼きと幻の沼「ポンホロ沼」で自然散策～

6月19日（日）春の穏やかな天気の中、第67回森とのふれあい『世界自然遺産・知床の森で幻の沼を発見しよう』を実施しました。

50名以上の応募の中から厳選な抽選の結果、9才から68才までの21名が参加し、遠くは遠軽町白滝からの参加もありました。

イベントは午前中に庁舎裏にある特製の炭窯で炭作りを体験し、午後はウトロ国有林に移動して世界自然遺産区域内にある『幻の沼』と呼ばれるポンホロ沼周辺を散策しました。

炭作りは、原木切りからです。子供達はなかなか動かないノコギリに苦戦しつつも一生懸命に腕を動かしていました。

切った原木を窯に入れ、次に蓋をするの為に泥を作ったのですが、子供達はもちろん大人達も童心にかえったように一緒になって、泥遊びを楽しんでいました。

窯に点火するための火種は毎年恒例の火興し道具で作りました。子供達は、なかなか火種が出来ず、何度も挑戦してやっと火種を作ることが出来、木くずに移し、炎が上がるとみんな大歓声をあげ盛り上がりました。



みんなに炭を分けてます

それから団扇で扇ぐこと30分余り、原木に火が移り煙突から白い煙がモクモク出てきました。

完成するまでにはまだ一昼夜かかることから作業はここで打ち切り。その後、隣の窯でできあがった炭を出し、炭はバーベキューに使う他、消臭や除湿、土壌改良に適していることの説明を受け、みんな試してみようと持ち帰りました。昼食は職員が作った炭を使いバーベキューを楽しみました。カバノキの炭は火付きがとても良く好評でした。

午後からは、知床横断道路沿いにある知床自然観察教育林へ移動し、森林散策を行いました。道中、ウトロ市街地では周りが見えないくらいに霧がかかっていましたが、教育林入口まで行くと霧が晴れすばらしい青空が広がりました。まるで私たちを歓迎するかのようでした。



種を探しています

林内は新緑の季節らしくみずみずしい若葉が茂る針広混交林が広がっていました。職員からトドマツやミズナラの種の特徴の説明があり、小さなトドマツの種をみんなで探しました。

樹木の他、動物の痕跡についてもタヌキの溜糞やクマガラの食痕、ヒグマの爪痕などを見ながら説明を受け、みなさん

とても感心している様子でした。

ポンホロ沼に着くと、雨上がりということもあり、澄んだ空気の中、とても綺麗な羅臼岳とポンホロ沼を見ることが出来ました。

この沼は7月中旬には干上がってしまい、今の時期にしか見られません。美しい景色の中で皆さん貴重なものが見られたと感激していました。



原木を切っています



種火を作ってます



ポンホロ沼で記念撮影

オホーツク「木」のフェスティバルに出展しました

～ご来場ありがとうございました～

5月18日（金）から20日（日）の3日間、北見市のサンドーム北見他会場で第22回オホーツク「木」のフェスティバルが開催されました。当センターからは「木の葉当てクイズin知床」「生態系保護地域やセンター活動を紹介したパネル展示」「知床の風景写真展」を出展しました。



木の葉当てクイズには子供から大人まで多くの方が樹木図鑑を片手に挑戦し、その姿は真剣そのもので、全問正解のちびっ子も次々誕生しました。また、同コーナーで行った知床に関するアンケートには200名を超える多くの方々にご協力いただきました。このアンケートでいただいたご意見をもとに、今後より一層、国民参加の森林づくりのご期待に応えられるよう活動を行っていきたいと思います。

いよいよシーズン！羅臼岳山開き開催される！



年間1万人近くが登山を楽しむ羅臼岳の山開きが7月1日（日）の午前6時より羅臼岳岩尾別登山口にて行われました。当日は小雨が降る山登りにはあいにくの天候ではありましたが、山岳会、観光協会等関係者約20名が集まったなかで、今シーズンの無事故を祈願しました。

とはいえ、今年には既に6月中旬に、雪渓による道迷いが原因の遭難騒ぎが発生しています。羅臼岳はいわゆる日本百名山の一つにも挙げられていることから人気の高い山ですが、標高差が1,400m超とそれなりの体力を要すること、

加えて遅くまで雪が残り道迷いや滑落の危険性があること、ヒグマも多く出没する場所であること等の理由から、相応の準備や装備が必要な山でもあります。知床最高峰でもあり、知床の地形の急峻さ、低標高から高山帯までの植生の垂直分布を体感する上でもってこいの山ではありますが、くれぐれも気を付けて登山を楽しんで下さい。

神秘の湖・「羅臼湖」

知床峠を羅臼側に3kmほど下った所に神秘の湖「羅臼湖」への入り口があります。そこから始まる羅臼湖への散策路は今、色とりどりの花や野鳥、残雪の羅臼岳が初夏を彩り美しいパノラマが広がっています。

ハイマツのてっぺんで忙しそうにさえずるノゴマの歌声、深緑に栄える真っ赤な身体のギンザンマシコ、三の沼には雄大に映る逆さ羅臼。ハイマツ帯のトンネルや、曲がりくねったダケカバからは自然環境の厳しさも感じます。そして、5つの沼を巡り最後に姿を見せる羅臼湖はさながら



に原生林に浮かぶ別天地のよう。これからの季節、羅臼湖への散策は見所、大自然の感じ処がたっぷりです。なお、現地入口には駐車場はありません。峠から徒歩又は公共交通機関での利用をお願いします。



↑道沿いに咲くゴゼンチチバナ。植生を痛めないよう道の中央を歩きましょう。

←天頂山の溶岩でせき止められてできた羅臼湖。